

第 44 回

# 全国消防救助技術大会

NEVER FORGET, GO FORWARD

～新たなステージへ～



主催／一般財団法人 全国消防協会  
後援／総務省消防庁・全国消防長会



# NEVER FORGET, GO FORWARD

～新たなステージへ～

2015年8月29日(土)

会場 【陸上】神戸学院大学ポートアイランドキャンパス

【水上】神戸市立ポートアイランドスポーツセンター

全国の消防救助隊員が一堂に集い、力を集結して人命救助に立ち向かう信念と、阪神・淡路大震災から二〇年が経過した神戸市が震災のことを「決して忘れず」、様々な取組みを行い「復興への歩み」を進めてきたこと、そして復興から「新たなステージへ」向けて進み出していることを発信するため「NEVER FORGET, GO FORWARD」新たなステージへ」をスローガンに第四回全国消防救助技術大会を、多くの来賓と市民をお迎えし盛大に挙行了しました。

この大会は、救助技術の高度化に必要な基本的要素の練磨を通じて、消防救助活動に不可欠な体力、精神力、技術力を養うとともに、全国の消防救助隊員が一堂に会し、競い、学ぶことを通じて、他の模範となる消防救助隊員を育成し、国民の消防に寄せる期待に力強く応えることを目的として毎年開催しており四四回を数えるに至りました。

昨年の千葉大会は、広島市で発生した大規模土砂災害の影響で中止としたため、二年ぶりの開催となりました。

平成一六年の第三三回大会が開催されて以来、一年ぶり三回目の大会開催となる神戸市は、シンボルであるポートタワーがたたずむ神戸港をはじめ日本を代表する国際港都として発展してきました。また、旧居留地や北野異人館などの異国情緒あふれる空間や、大都市という面だけではなく、山や海に囲まれ、自然が豊かであることも神戸市の特徴です。その美しい港町を神戸市消防局では市民の安全を守り安心を支えるため、全職員が一丸となって消防行政を強力に推進しています。

今大会は神戸市街地から交通アクセスのよい神戸学院大学に協力いただき、全国消防救助技術大会初の試みでもある地域大学と連携して大学キャンパス内で開催しました。

さて、大会当日は、一般見学者や消防関係者など約一八、〇〇〇名で埋め尽くされた会場内は、開会式前から熱気と興奮に包まれていました。

午前八時五五分、神戸市消防音楽隊の軽快な演奏に合わせて、国際消防救助隊、緊急消防援助隊をはじめ、全国九地区支部から選抜された九八四名の精鋭たちが堂々と入場し、開催地消防長である岡田神戸市消防局長、水上の部にあつては、堀場名古屋市消防長の開会宣言で大会の幕は開きました。

開会式ではまず、消防使命達成のため殉職された消防職員の御霊に対して黙とうを捧げました。続いて国旗・大会旗掲揚の後、大会会長である高橋全国消防協会会長のあいさつ、開催地である久元神戸市長のあいさつ、佐々木消防庁長官、秋本日本消防協会会長、井戸兵庫県知事、守屋神戸市会議長の祝辞と続き、大会審判長の川本北九州市消防局長による審

判長指示が行われました。その後、出場隊員を代表して陸上の部は神戸市消防局の広内隊員、水上の部は神戸市消防局の西別府隊員が力強く隊員宣誓を行いました。

陸上会場の開会式終了後のオープニングセレモニーや、水上会場でのハーフタイムショーでは、一般財団法人日伯協会が披露された会場は大いに盛り上りました。

いよいよ訓練の幕開けです。厳しい地区大会を勝ち抜いた精鋭たちの眼光是鋭さを増し、訓練に臨みます。人命救助のプロとしての誇りと絶対に負けない救助魂を胸に、鍛え抜かれた屈強な体で磨き抜かれた救助技術を次々と披露する隊員の姿に、観覧席からは歓声や激励、また消防に寄せる期待の拍手が鳴り止みませんでした。

訓練の締めくくりは、技術訓練。陸上の部では、兵庫県下合同救助隊が「震災に伴う救助活動」をテーマに、水上の部では和歌山市消防局が「状況変化に対応した救助活動」をテーマに、創意工夫を凝らした救助技術を披露しました。会場で技術訓練を見守る隊員の眼差しも、細部にわたるまで吸収しようとする姿が感じられました。

また、全国消防救助技術大会と同時に開催した市民イベントでは、防災体験イベント「イザ！カエルキャラバン！」を実施しました。約二〇種類の防災体験プログラムを準備し、参加された親子からは、防災体験イベントを通じて、楽しみながら防災についての知識が深まり、防災に対する関心が高まったとの声が多く聞かれ大好評でした。

閉会式では、各種目の入賞者を高橋大会会長が表彰し、「陸上の部、水上の部でそれぞれの隊員の皆さんが日頃から鍛え抜かれた気力、体力及び磨き上げた救助技術を遺憾なく発揮し、それぞれ素晴らしい成果をおさめられた。本大会で示された優れた消防救助技術が将来にわたり永く伝承されていくことを期待する。隊員の皆さんにおかれては、本日本までの訓練成果を災害現場でも十分に発揮され、今後も消防救助技術の更なる向上に努められ、消防に対する地域住民の負託に一層応えられることを切に希望する。」との講評がありました。国旗降納に続いて、大会旗が岡田神戸市消防局長から次期開催地の芳野松山市消防局長に引き継がれ、芳野松山市消防局長が次期開催地としてあいさつしました。最後に、岡田神戸市消防局長が閉会を宣言し、第四四回全国消防救助技術大会は幕を下ろしました。

終わりに神戸市消防局の皆様をはじめ、残暑が続く中、大会運営にあたられた全ての皆様に対し、心より感謝申し上げます。



# 挨拶

一般財団法人全国消防協会

会長 高橋 淳

第四回全国消防救助技術大会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、公務ご多忙のところ、佐々木消防庁長官、秋本日本消防協会会長、また、地元からは井戸兵庫県知事をはじめ多数のご来賓のご臨席を賜り、大会が盛大に開催できますことをまずもって心から御礼申し上げます。

さて、本年は阪神・淡路大震災から二〇年が経過した節目の年です。震災は私達に多くの課題と教訓をもたらしました。我々消防は今日までの二〇年間、その課題克服のために様々な施策を展開してきましたが、地震や火山噴火、土砂災害などの自然災害は依然として日本各地で発生しており、多くの尊い人命と貴重な財産が失われております。

また、救助活動を要する災害も後を絶たず、救助事象も複雑多岐にわたっている現状にあります。このような中、我が国の救助技術力は、各種資機材等の改良・開発はもとより、隊員の皆さんの救助に対する熱意とたゆまぬ努力により着実に発展を遂げているところですが、全国でも卓越した技術を有する隊員が一堂に会するこの大会が、救助技術のますますの向上に寄与し、その成果が将来にわたって継承されていくことを期待するものです。

本日の救助技術大会に臨み、参加隊員の皆さんにおかれましては、安全管理に十分配慮され、これまでの訓練成果を存分に発揮し、それぞれの目標を達成されますことを切に期待いたします。

結びに、本大会の開催にあたり、格別のご支援・ご協力を賜りました久元市長はじめ神戸市当局並びに神戸市消防局の岡田局長、大会運営にあられる職員の皆様に深く感謝申し上げますとともに、ご列席の皆様、ご来場の皆様のご健康とご多幸を心からご祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



祝辞  
兵庫県知事  
井戸 敏三



祝辞  
日本消防協会会長  
秋本 敏文



祝辞  
消防庁長官  
佐々木 敦朗



あいさつ  
神戸市長  
久元 喜造



次期開催地あいさつ  
松山市消防局長  
芳野 浩三



審判長指示  
北九州市消防局長  
川本 一雄



開会宣言・閉会宣言  
神戸市消防局長  
岡田 勇



祝辞  
神戸市会議長  
守屋 隆司

# 陸上の部

ロープブリッジ渡過 (基礎訓練)



水平に展開された渡過ロープ(20メートル)(往復40メートル)を往路はセーラー渡過、復路はモンキー渡過する。ロープ渡過の基本的な訓練。

【標準所要時間 二八秒】

## 表彰者

- 【北海道】**  
 東十勝消防事務組合消防本部 神垣 隆行  
 西胆振消防組合消防本部 大屋 玲於  
 富良野広域連合消防本部 古谷 一樹  
 恵庭市消防本部 山崎 公大
- 【東北】**  
 燕・弥彦総合事務組合消防本部 石川 健太  
 青森地域広域事務組合消防本部 神 翔太  
 白河地方広域市町村圏消防本部 深谷 幸亮

- 能代山本広域市町村圏組合消防本部 伊藤 謙吾  
 宮古地区広域行政事務組合消防本部 館 和寿  
 西村山広域行政事務組合消防本部 渡邊 一輝  
 石巻地区広域行政事務組合消防本部 藤田 亮祐
- 【関東】**  
 館林地区消防組合 消防本部 吉田 脩平  
 芳賀地区広域行政 事務組合消防本部 野澤 圭佑  
 土浦市消防本部 塩畑 京一  
 児玉郡市広域消防本部 首藤 達  
 習志野市消防本部 福岡 義人  
 東京消防庁 須川 穰二  
 上田地域広域連合消防本部 池田 祥  
 甲府地区広域行政事務組合消防本部 伊藤 大輔  
 藤沢市消防局 橋本 翔吾  
 志太広域事務組合志太消防本部 三浦 雄翔
- 【東海】**  
 西尾市消防本部 伊藤 健  
 羽島市消防本部 服部 高也  
 伊賀市消防本部 本田 翔太
- 【東近畿】**  
 かほく市消防本部 山田 貴春  
 嶺北消防組合消防本部 北 浩伸  
 大津市消防局 朝田 秋平  
 宇治市消防局 伊東 拓海  
 奈良市消防局 河合 智行  
 伊都消防組合消防本部 松浦 巧
- 【近畿】**  
 宝塚市消防本部 奥野 始  
 大阪市消防局 木下 啓史  
 三木市消防本部 西村 聡朗
- 【中国】**  
 津山圏域消防組合 北本 拓士  
 鳥取県西部広域行政管理組合消防局 奥田 大介  
 福山地区消防組合消防局 田邊 篤紀  
 雲南広域連合雲南消防本部 船木 直人  
 山口市消防本部 田中 優樹  
 みよし広域連合消防本部 加藤雄一郎

- 高幡消防組合消防本部 日林 靖典  
 東温市消防本部 川崎 康平  
 高松市消防局 高松 和弘
- 【九州】**  
 那覇市消防局 上原 卓也  
 大隅肝属地区消防組合消防本部 志嶋 竜平  
 八女消防本部 浦部 健  
 佐賀広域消防局 米原 克哉  
 松浦市消防本部 森 一史  
 山鹿市消防本部 渡邊 健多  
 豊後大野市消防本部 甲斐 勇樹  
 日向市消防本部 日野 公平

はしご登はん (基礎訓練)



自己確保の命綱を結索した後、垂直はしごを一五メートル登はんする。災害建物への進入等、消防活動には欠かせない訓練。

【標準所要時間 二四秒】

## 表彰者

- 【北海道】**  
 西胆振消防組合消防本部 細川 雄太  
 札幌市消防局 白岡 諒  
 富良野広域連合消防本部 山形 貴博
- 【東北】**  
 上越地域消防事務組合消防本部 関沢 亮輔  
 会津若松地方広域市町村圏整備組合消防本部 齋藤 佑介  
 石巻地区広域行政事務組合消防本部 佐々木清将  
 東根市消防本部 鈴木 誠  
 久慈広域連合消防本部 久保 準

- 八戸地域広域市町村圏事務組合消防本部 坂井田孝明  
 大曲仙北広域市町村圏組合消防本部 高橋 大貴
- 【関東】**  
 流山市消防本部 大崎 洋平  
 東京消防庁 玉川 拓也  
 越谷市消防本部 渡邊 龍司  
 大和市消防本部 池田 龍司  
 茨城西南地方広域市町村圏事務組合消防本部 館野 祐也  
 峡北広域行政事務組合消防本部 神宮司悠介  
 芳賀地区広域行政事務組合消防本部 神宮司悠介
- 【東海】**  
 松本広域消防局 濱野 流星  
 館林地区消防組合消防本部 青柳 大樹  
 下田消防本部 野間 良昌  
 岡林 孝裕
- 【東近畿】**  
 多治見市消防本部 岡田 拓也  
 鈴鹿市消防本部 湯浅 世基  
 尾張旭市消防本部 貴志 侑司
- 【近畿】**  
 有田川町消防本部 玉置 利弘  
 奈良県広域消防組合消防本部 中田 佑哉
- 【中国】**  
 京都市中部広域消防組合消防本部 兼信 史彦  
 湖北地域消防本部 相馬 優太  
 富山市消防局 村木 毅行  
 福井市消防局 河端 哲聡
- 【西中国】**  
 川西市消防本部 芳田 直樹  
 北はりま消防本部 山本 逸人  
 泉州南広域消防本部 吉井 鋭人
- 【四国】**  
 新居浜市消防本部 黒河 史郎  
 高知市消防局 大住 恭平  
 高松市消防局 岩瀬 建悟
- 【九州】**  
 田川地区消防本部 木森 涼介  
 佐賀広域消防局 佐藤 洋毅  
 長崎市消防局 宮口 洋毅

都城市消防局  
徳之島地区消防組合  
那覇市消防局

中原 寛幸  
西松 勇太  
大城 辰

ロープ応用登はん（連携訓練）



登はん者と補助者が二人一組で協力し、器材を使わずに塔上から垂下されたロープを一メートル登はんする。

【標準所要時間一六秒】

表彰者

【北海道】

北見地区消防組合消防本部 吉岡 大城  
富良野広域連合消防本部 伊賀 竜一

小樽市消防本部 本多 佑生  
田中康二郎 榑 哲

【東北】

八戸地域広域市町村圏事務組合消防本部 佐川 秀伸  
松村 高道  
能代山本広域市町村圏組合消防本部 安井 径

遠野市消防本部 畠山 達也  
佐藤 貴幸  
置賜広域行政事務組合消防本部 山口 裕毅

五十嵐大樹

仙台市消防局 齋藤 晃祐

須賀川地方広域消防本部 藤本 晃

二瓶 匡史

長岡市消防本部

高崎市等広域消防局

南那須地区広域行政事務組合消防本部

日立市消防本部

埼玉西部消防局

千葉市消防局

川崎市消防局

峡北広域行政事務組合消防本部

千曲坂城消防本部

長泉町消防本部

【東海】

海部東部消防組合消防本部

飛騨市消防本部

桑名市消防本部

【東近畿】

奥能登広域圏事務組合消防本部

奥能登広域圏事務組合消防本部

嶺北消防組合消防本部

湖南広域消防局

京都市消防局

奈良県広域消防組合消防本部

海南市消防本部

【近畿】

堺市消防局

諏佐 祐司

井田 貴祐

道下 星也

黒岩 浩之

小池 大

鈴木 智史

長山 大輔

小島 雄輝

山崎 志朗

野崎 浩行

稲見 康

間宮 大介

丹野 聡彦

小田切 陽介

倉谷 修平

朝日 好彦

島田 郁也

富江 都良

星屋 亮

菅木 一人

田中 宏樹

森谷 一馬

井上 駿一

鳥居 厚志

桑島 猛

姫路市消防局

北はりま消防本部

【中国】

倉敷市消防局

鳥取県西部広域行政管理組合消防局

東広島市消防局

松江市消防本部

光地区消防組合消防本部

海部消防組合消防本部

西条市消防本部

【九州】

春日・大野城・那珂川消防組合消防本部

伊万里・有田消防本部

県央地域広域市町村圏組合消防本部

八代広域行政事務組合消防本部

別府市消防本部

都城市消防局

伊佐湧水消防組合消防本部

浦添市消防本部

浦添市消防本部

浦添市消防本部

真野 充史

澤田 拓也

山本 圭佑

宇仁 肇

澁谷 真一

齋藤 数馬

南 尚志

碓 剛志

前田 康希

田中 勇紀

坂本 康智

川本 有希

重岡 孝典

一倉 大輝

武田 直也

岡根 正弥

高瀬 裕貴

金子 聡一郎

渡邊 祥史

藤澤 祐二

吉永 潤一

西村 明大

斉野 祐人

松永 健吾

松村 暢也

三人一組（要救助者を含む）で、一人が空呼吸器を着装して長さ八メートルの煙道内を検索し、要救助者を屋外に救出した後、二人で安全地点まで搬送する。ビルや地下街等で煙に巻かれた人を救出するための訓練。

【標準所要時間一分一〇秒】

表彰者

【北海道】

札幌市消防局

上川北部消防事務組合消防本部

【東北】

八戸地域広域市町村圏事務組合消防本部

岩城 智大

兼平 和樹

ほくく救出（連携訓練）



- |          |       |       |       |                 |       |       |       |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |        |       |        |       |       |       |       |        |       |        |       |       |       |       |       |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|----------|-------|-------|-------|-----------------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 大館市消防本部  | 佐藤 賢一 | 奥村 祐輝 | 渡部 隆之 | 西村山広域行政事務組合消防本部 | 齋藤 博文 | 長岡 大輔 | 中村 匠  | 佐々木 齋人 | 瀬川 広朗 | 木村 昇彦 | 渡邊 真平 | 渡部 亮太 | 大竹 元人 | 大坪 敏久 | 上野 一輝 | 関 惠志郎 | 稲川 学  | 蓮田 恵太郎 | 千葉 郁  | 磯部 豊   | 岩田 浩之 | 松本 亮平 | 鈴木 拓也 | 高澤 尚人 | 長谷川 雄一 | 並木 碧  | 曾根 恵治  | 畑中 宏紀 | 吉田 祐哉 | 千野 祥太 | 岡田 武仁 | 横澤 俊也 | 佐藤 優太郎 | 若林 卓  | 飯山 健太 | 岩田 和也 | 伊藤 孝徳 | 伊尾 貴博 | 後藤 恒規 | 西村 誠規 | 黒木 翔泉 | 入野 裕太 |
| 四日市市消防本部 | 山口 翔輝 | 萩原 幸史 | 中瀬 古史 | 若狭消防組合消防本部      | 村田 祐介 | 山下 倫弘 | 大道 雅也 | 井上 貴弘  | 守浦 暉  | 松川 真蓮 | 中村 稔  | 福島 遼太 | 木下 大輝 | 田中 良和 | 國谷 健二 | 小出 悠真 | 上野 優也 | 川端 勇人  | 古田 充廣 | 谷澤 晃一郎 | 金武 正宣 | 阿部 将也 | 岡部 晋伍 | 真浦 成貴 | 板西 弘樹  | 荻野 喬之 | 濱田 晃太郎 | 内田 直也 | 轟 幸太  | 前田 晋作 | 関 康裕  | 小林 貴元 | 新畑 一将  | 渡邊 啓介 | 森山 裕喬 | 鐘推 裕則 | 栢根 純一 | 吉野 謙大 | 高木 省吾 | 中本 正起 | 向井 正起 |       |



ロープブリッジ救出（連携訓練）

- |              |       |       |        |                |        |       |       |       |        |       |       |       |       |        |       |       |       |      |
|--------------|-------|-------|--------|----------------|--------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|------|
| 美馬西部消防組合消防本部 | 有明 勝也 | 大高 和真 | 井原 大輔  | 八代広域行政事務組合消防本部 | 竹葉 洋輔  | 畦地 龍美 | 島村 航平 | 小笠 義文 | 坂本 慎一郎 | 井原 大輔 | 大高 和真 | 有明 勝也 |       |        |       |       |       |      |
| 鹿児島市消防局      | 佐藤 隆昭 | 橋村 亮太 | 大久保 広翼 | 古田 智宏          | 小野田 智光 | 田副 裕貴 | 宮本 智史 | 佐藤 龍治 | 諷坂 光希  | 阪元 聖昂 | 河野 好徳 | 関谷 貴彰 | 山下 貴彰 | 古川 格太郎 | 高吉 智博 | 徳重 昭仁 | 與那 健也 | 金城 優 |

**表彰者**

【標準所要時間一分一五秒】  
 四人一組（要救助者を含む）で、二人が水平に展張された渡過ロープ（二〇メートル）により対面する塔上へ進入し、要救助者を救出ロープに吊り下げてけん引して救出した後、脱出する。要救助者を隣の建物等から進入し、救出することを想定した訓練。

- |                  |       |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|------------------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 埼玉西部消防局          | 浅間 祥太 | 赤井 幸太郎 | 小田 桐亮 | 土生 大輔 | 高橋 俊幸 | 右谷 慎悟 | 中谷 壮志 | 高橋 明也 | 佐藤 巧也 | 伊藤 弘己 | 岡本 一毅 | 富樫 亮太 | 相原 翔平 | 齋藤 圭介 | 八幡 修太 | 松本 忠慶 |       |       |
| 築西広域市町村圏事務組合消防本部 | 早瀬 将大 | 萩原 秀明  | 鈴木 巧  | 小島 仁  | 菊池 康  | 根本 拓磨 | 大関 駿斗 | 井坂 卓也 | 會澤 卓也 | 高橋 卓也 | 加藤 雄貴 | 大曾 根  | 遠藤 敦  | 日向 和良 | 上原 貴輔 | 洪原 光  | 中澤 浩一 | 島崎 勝豊 |
| 常陸太田市消防本部        | 浅間 祥太 | 赤井 幸太郎 | 小田 桐亮 | 土生 大輔 | 高橋 俊幸 | 右谷 慎悟 | 中谷 壮志 | 高橋 明也 | 佐藤 巧也 | 伊藤 弘己 | 岡本 一毅 | 富樫 亮太 | 相原 翔平 | 齋藤 圭介 | 八幡 修太 | 松本 忠慶 |       |       |
| さいたま市消防局         | 浅間 祥太 | 赤井 幸太郎 | 小田 桐亮 | 土生 大輔 | 高橋 俊幸 | 右谷 慎悟 | 中谷 壮志 | 高橋 明也 | 佐藤 巧也 | 伊藤 弘己 | 岡本 一毅 | 富樫 亮太 | 相原 翔平 | 齋藤 圭介 | 八幡 修太 | 松本 忠慶 |       |       |

入間東部地区消防組合消防本部  
佐藤 陽介

東京消防庁

【東海】  
尾三消防本部

本巣消防事務組合消防本部

【東近畿】  
金沢市消防局

湖北地域消防本部

宇治市消防本部

【近畿】  
高槻市消防本部

柏原羽曳野藤井寺消防組合

神戸市消防局

【中国】  
岡山市消防局

宮崎 宗也 繪面 暢利 加賀山 達也 柿木 和哉 杉本 拓磨 藤原 圭一 川端 巨宏 向江 拓也 阪本 恭平 松本 忠史 中村 祐輔 奥田 悟志 池田 真央 櫻井 真央 岸本 淳一 山本 速弘 東元 仁志 川崎 太久治 北川 峰基 木野 盛史 森田 篤 中原 正樹 松本 拓也 清水 貴也 龜田 清和 道脇 翔平 中島 孝宣 山田 佑佑 吉田 健吾 岩佐 大 姫木 裕大 原田 一馬 鈴木 裕一 小林 成毅 今井 正尚 大西 恵二 佐藤 敬介 山田 啓太 遠山 毅 竹内 秀典 吉野 真誠 松岡 誠司

鳥取県西部広域行政管理組合消防局  
藤原 裕司 馬場 大樹

【四国】  
美馬市消防本部

【九州】  
宗像地区消防本部

佐賀広域消防局

八代広域行政事務組合消防本部

宮崎 慎一 田中 裕成 沖田 健作 松本 豊 千綿 研二 武藤 光司 児玉 知洋 吉武 憲彦 有田 健 大峰 尚司 野見山 翔平 上田 将輝 北岡 孝樹 奥村 拓也 小立 泰宏 大坪 賢二 別本 雅治 西川 芳宏 馬場 大樹



引揚救助 (連携訓練)

五人一組(要救助者を含む)で、二人が空呼吸器を着装して塔上から塔下へ降下し、検索後、要救助者を塔下へ搬送し、四人で協力して塔上へ救出した後、ロープ登はんにより脱出する。地下やマンホール等での災害を想定した訓練。  
【標準所要時間二分三〇秒】

表彰者

【北海道】  
南渡島消防事務組合消防本部

【東北】  
盛岡地区広域消防組合消防本部

南魚沼市消防本部

【関東】  
埼玉西部消防局

三郷市消防本部

市原市消防局

【東近畿】  
宇治市消防本部

【近畿】  
岸和田市消防本部

小森 博之 森正彦 森達志 小林 秀紀 森廣 泰彦 長谷川 浩介 岡本 雅至 大西 尊徳 本西 智生 宮島 智生 中村 志綺 片倉 慎也 小川 卓也 高橋 基之 小早 瀨明 豊田 良太 阿部 翼 中村 飛鳥 中村 恭啓 田上 健介 山崎 裕一郎 伊藤 光平 幕田 明 奥富 直人 阿久津 太一 星野 陽介 大津 敬佑 伊佐 早讓 大平 晃裕 片桐 健大 小館 健吾 留目 裕太 田代 雄徹 和山 和真 山本 仁 伏見 天志 松本 健太 長尾 優太 鎌田 竜史 安部 辰哉

神戸市消防局

【中国】  
江津邑智消防組合消防本部

【九州】  
久留米広域消防本部

大分市消防局

日置市消防本部



障害突破 (連携訓練)

内村 航大 梶原 博 田口 良介 坂園 修平 上園 隆一 安部 剛 早川 一平 矢野 涼太 麻生 大輝 後藤 大平 堀内 守貴 草場 祐喜 高山 晃一 吉武 智太 井上 智太 川信 秀昭 荒木 康一 中村 雅道 金山 航太 平木 計 井上 裕登 山根 健嗣 八幡 峻平 小佐見 亮介 原田 翔平 広内 将実 伊関 司 宮本 佳一 古川 誠 岩本 穂

五人一組（補助者を含む）で、四人が緊密な連携の下、一致協力して「乗り越える」「登る」「渡る」「降りる」「濃煙を通過する」の基本動作により五つの障害を突破する。災害現場の様々な障害を想定した訓練。

【標準所要時間二分一五秒】

## 表彰者

【北海道】  
札幌市消防局

【東北】  
宮城地方広域市町村圏組合消防本部

福島市消防本部

【関東】  
さいたま市消防局

ひたちなか・東海広域事務組合消防本部

入間東部地区消防組合消防本部

流山市消防本部

対馬 健一  
内山 拓哉  
佐々木 竜誠  
鍵谷 幸太  
佐藤 康平  
小塩 礼之  
遠藤 憲利  
渡部 和史  
上野 康史  
長谷川 信勝  
佐藤 信幸  
山縣 貴希  
秋元 栄太  
加藤 裕太  
浦藤 克哉  
明比 雄平  
堂本 雄二  
福島 好也  
三坂 和也  
横田 健一  
内山 健一  
楠本 雄太  
柴田 翔平  
立原 歩夢  
田村 慧  
斜村 優樹  
福村 繁樹  
神木 透  
木村 俊也  
児玉 隆宏  
知久 隼人  
菅 裕樹  
安部 雄一  
熊谷 龍之介

成田市消防本部

茅ヶ崎市消防本部

湖西市消防本部

【東近畿】  
富山市消防局

【近畿】  
豊中市消防局

柏原羽曳野藤井寺消防組合

【中国】  
広島市消防局

【九州】  
久留米広域消防本部

筑紫野太宰府消防組合消防本部

山田 陽一  
植田 浩一郎  
村松 博文  
鎌形 利春  
鈴木 一翔  
山口 惇明  
三戸 徹士  
田村 孝至  
武富 康介  
福島 大輔  
伊藤 宏輝  
彦坂 進也  
滝口 慎也  
後藤 英典  
前田 康平  
鈴木 康平  
内山 宏二  
楠田 雄太  
宮田 幸太朗  
川岸 達也  
佐伯 勇  
森下 裕也  
小谷 悠介  
眞江 卓幸  
齊藤 真俊  
鴨川 祐太  
松木 康潤  
松井 幸磨  
関杉 勇佑  
松井 隆一  
倉橋 智大  
砂原 基彦  
泉ノ平 浩平  
山崎 貴博  
荒巻 陽一  
高山 由展  
坂本 祐樹  
鹿毛 一平  
平山 祐規  
鬼塚 公樹  
江口 健太  
敬人

## 水上の部

基本泳法（基礎訓練）



千原 辰巳  
中村 拓磨

「じゅんか飛び込み」で入水した後、常に顔が水面に出た状態で、基本的な泳法である「ぬき手」と「平泳ぎ」でそれぞれ二五メートルずつ泳ぐ。水難救助の基本的な泳法を習得するための訓練。

【標準所要時間四〇秒】

## 表彰者

【東北】  
釜石大槌地区行政事務組合消防本部  
仙台市消防局  
柏崎市消防本部

【関東】  
埼玉東部消防組合消防局  
東京消防庁

【東海】  
志太広域事務組合 志太消防本部  
丹羽広域事務組合消防本部  
各務原市消防本部

澤田 翼  
大島 勇志  
深田 悠斗  
奥澤 雅明  
西條 友昭  
勝本 靖啓  
亀山 貴弘  
早野 逸圭  
福田 圭

【東近畿】  
京都市消防局  
相楽中部消防組合消防本部  
和歌山市消防局

【近畿】  
大阪市消防局  
東大阪市消防局  
神戸市消防局

【中国】  
広島市消防局

【西国】  
中芸広域連合消防本部  
【九州】  
熊本市消防局  
人吉下球磨消防組合消防本部



複合検索（基礎訓練）

マスク、スノーケル、フィンを着装し、スノーケリングで障害物（救命浮環）を突破しながら水中に沈められたリング四個を検索して、引き揚げる。水中の行方不明者の搜索を想定した訓練。

【標準所要時間四〇秒】

## 表彰者

【東北】  
仙台市消防局  
いわき市消防本部

村上 芳行  
木元 一宏  
八代 健史



溺者搬送（連携訓練）

【関東】	太田市消防本部 川口市消防局 埼玉東部消防組合消防局 川崎市消防局 横須賀市消防局 藤沢市消防局 茅ヶ崎市消防本部 静岡市消防局	【東海】	名古屋消防局 知多市消防本部 【東近畿】	大津市消防局 京都市消防局 【近畿】	大阪市消防局 神戸市消防局 神戸市消防局	【中国】	福山地区消防組合消防局	【四国】	高知市消防局	【九州】	東部消防組合消防本部
月田 康之 稲葉 翔平 中島 雄大 城島 敬 北島 侑 矢吹 将人 新倉 浩志 太田 元	清水 将 加藤 弘樹	永達 伸一郎 門前 光治	米田 規員 横山 貴幸 山本 和揮	小西 智文	坂本 泰隆 宮城 郁孝						

表彰者

二人一組（要救助者を含む）で、救助者が「じゅんが飛び込み」で入水後、要救助者（溺者）を注視しながら近づき、チンプルで確保した後、ヘアークャリーにより救助する。  
【標準所要時間四二秒】

【東北】	新潟市消防局 柏崎市消防本部	【関東】	草加市消防本部 上尾市消防本部 茅ヶ崎市消防本部	【東海】	小牧市消防本部 田原市消防本部	【近畿】	守口市門真市消防組合 神戸市消防局	【中国】	松江市消防本部	【四国】	香美市消防本部	【九州】	水俣芦北広域行政事務組合消防本部
邊見 圭介 五十嵐 正憲 大野 翔平 近藤 大介	里 純哉 小磯 陽子 及川 啓 辻 友子 末角 優輝 内田 有哉	稲葉 智文 倉知 誠 齋藤 建 矢野 里奈	橋本 光治 東都 源也 原田 良平 加藤 達洋 有田 拓巳 山田 拓巳	山本 康博 藤原 郁香	片木 大介 岩下 瑞洋	寺下 昌吾 森本 鉦史							



人命救助（連携訓練）

三人一組（要救助者を含む）で救助者が「三重もやい結び」のロープをたすき掛けにして要救助者の位置まで泳ぎ、要救助者をクロスチェストキャリーで確保し、補助者が救助ロープをたぐり寄せて救助した後、再び水没しつつある要救助者（訓練人形）を水面に引き揚げ、救助する。  
【標準所要時間一分三秒】

表彰者

【東北】	新潟市消防局	【東海】	衣浦東部広域連合消防局	【近畿】	大阪市消防局 神戸市消防局
田澤 奨也 加藤 慶大 板垣 宏輔	田中 未来 筒井 群	矢野 太志 岩木 亮 馬場 壮盛 道永 直生 宮村 利幸 加藤 諒			



溺者救助（連携訓練）

【中国】	倉敷市消防局	【九州】	沖縄市消防本部
藤田 晃平 斎藤 大器 伊藤 明希	田場 匠 玉城 武範 稻福 恭彦		

表彰者

【東北】	仙台市消防局
菅原 侑哉 山崎 健太郎 三塚 雅文	



水中結索（連携訓練）

- 新潟市消防局
- 【関東】 東京消防庁
- 磐田市消防本部
- 志太広域事務組合志太消防本部
- 【東海】 名古屋市消防局
- 【東近畿】 湖南広域消防局
- 【近畿】 大阪市消防局
- 【四国】 大川広域消防本部

- 板垣 宏輔
- 佐藤 雄也
- 田澤 奨也
- 谷口 誠司
- 磯部 和秀
- 石川 亮
- 厚海 練太郎
- 鈴木 達也
- 河島 健一
- 亀山 貴弘
- 小澤 幸亮
- 村松 諒一
- 清水 正智
- 名和 将
- 酒井 一平
- 中島 和洋
- 今江 直人
- 池田 耕二
- 勝丸 大地
- 吉川 政史
- 山内 良一
- 橋本 拳志郎
- 佐廣 英吉
- 佐次 英紀

**表彰者**

三人一組で水中の結索環に、第一泳者は「もやい結び」、第二泳者は「巻き結び」、第三泳者は「ふた回りふた結び」のそれぞれ指定された三種類のロープ結索を行う。水中におけるロープ結索技術を習得するための訓練。

【標準所要時間一分四六秒】

- 【東北】 釜石大槌地区行政事務組合消防本部
- いわき市消防本部
- 【関東】 川口市消防局
- 東京消防庁
- 【東海】 名古屋市消防局
- 【近畿】 大津市消防局
- 【近畿】 神戸市消防局
- 【中国】 鳥取県東部広域行政管理組合消防局

- 佐藤 友伍
- 澤田 翼
- 谷古宇 勝明
- 佐藤 剛
- 八代 健史
- 吉田 昌貴
- 染谷 将利
- 浅井 俊紀
- 里見 達矢
- 白川 耕介
- 大谷 貴仁
- 岡田 直樹
- 田口 恭平
- 野沢 叔弘
- 伊藤 尚輝
- 吉川 義輝
- 忠 潤吾
- 東畑 隆大
- 小西 一也
- 山田 章貴
- 河江 翔平
- 澤田 将人
- 三ツ井 裕介
- 徳永 貴哉
- 横山 元樹
- 伊東 貴司
- 大西 純平
- 上田 広大
- 中川 周磨
- 上田 大智



水中検索救助（連携訓練）

- 【四国】 徳島中央広域連合消防本部
- 【九州】 水俣芦北広域行政事務組合消防本部
- 赤澤 圭亮
- 吉田 昌弘
- 田岡 和晃
- 松本 祐真
- 菊川 浩平
- 森本 敏史

四人一組で第一泳者が水面を、第二泳者が水中をそれぞれ検索し、水没している要救助者（訓練人形）を発見して水面へ引き揚げた後、第三泳者と第四泳者が協力して対岸の救出地点まで搬送し、救助する。

【標準所要時間一分四二秒】

**表彰者**

【東北】 にかほ市消防本部

- 【関東】 東京消防庁
- 【東海】 大垣消防組合消防本部
- 【東近畿】 京都市消防局
- 【近畿】 大阪市消防局
- 神戸市消防局
- 【四国】 幡多西部消防組合消防本部
- 【九州】 熊本市消防局
- 小松 翔馬
- 須田 太郎
- 今野 慎太郎
- 岡田 直樹
- 阿部 僚将
- 望月 洋平
- 町田 啓太
- 出木 直也
- 宮本 直也
- 村上 剛
- 村上 剛
- 村松 直樹
- 後藤 健生
- 鈴木 友典
- 水谷 隆宏
- 小島 隆宏
- 新野 祐人
- 門前 光治
- 嘉根 大介
- 平井 裕士
- 堤 勇樹
- 松本 秀
- 榎本 秀
- 赤松 一也
- 石丸 亮介
- 横山 貴幸
- 山中 亮一
- 山崎 裕一
- 杉山 裕一
- 尾崎 仁志
- 竹村 大彰
- 岡村 大彰
- 角谷 勇飛
- 土田 潤也
- 荒牧 竜治
- 西岡 治彦
- 片山 誠也



## 陸上の部

### 技術訓練

定められた救助方法や資器材に縛られることなく、創意工夫のもとで、より安全で迅速・確実な訓練を発表するもの。

〔近畿〕  
兵庫県  
神戸市消防局

西宮市消防局	消防司令補	結城	康之
	消防司令補	立脇	龍也
西はりま消防組合	消防士長	小島	将樹
	消防士長	山口	俊之
川西市消防本部	消防司令補	猪野	哲男
	消防司令補	森井	健至



〔想定内容〕  
川西市消防本部  
消防司令補 大塚 真朗  
想定は、「出火建物内で消火活動中の隊員が負傷し、屋内に取り残されている。」というものです。  
平成二四年度・二五年度の兵庫県下消防長会救助技術研究会作業部会において二年間研究した「火災対応救助」の内容に基づき実施します。  
出火建物と見立てたセットの使用や音響による演出を加え、臨場感のある訓練が披露できるよう工夫を凝らしました。

〔近畿〕  
兵庫県  
明石市消防本部  
消防司令 吉岡 利行  
消防司令補 北崎 宏行  
消防士長 伊関 建史  
消防士長 桑島 健誠  
淡路広域消防事務組合消防本部

## 水上の部

〔想定内容〕  
加古川市消防本部  
消防司令補 的野 純平  
北はりま消防本部  
消防司令補 梶原 大介  
三木市消防本部  
消防士長 寺西 克仁  
高砂市消防本部  
消防士長 泉 智博  
小野市消防本部  
消防士長 稲岡 浩二  
想定は、「地震災害により倒壊の恐れがある建物内で、家人一人が負傷し自力脱出ができない。」というものです。  
地震災害では同時に多発する火災や救助などに追われ、公助の機能が制限され消防力が劣勢となります。その中で市民と協力して救助活動を行う「共助」をテーマに訓練を実施します。  
平成二二年度に兵庫県下救助隊員の知識・技術の向上及び救助活動時の統一事項の徹底を図ることを目的に兵庫県下消防長会救助技術研究会が発足しました。以後、同研究会作業部会が年間を通じて新たな救助活動の研究等を行っており、今回の訓練は平成二二・二四年度にパイプサポートを使用したショアリングの有効性について検証された技術を取り入れたものです。  
パイプサポートの利点は、次のとおりです。  
① 強度に優れている  
② 費用が安い  
③ 軽量であり、持ち運びが便利である  
④ 形を自由に組替ができ、素早い設定が可能である

〔東近畿〕  
和歌山県  
和歌山市消防局

消防司令	千川 雅也
消防司令補	雑賀 文王
消防士長	鉄羽 基樹
消防士長	上西 伸哉



〔想定内容〕  
南海トラフ巨大地震が発生し、津波が押し寄せ、沿岸部に近い市街地が水没。  
浮力体（ペットボトル）に掴まっている要救助者が一名、自力で浮いている要救助者が一名、今にも溺れそうな要救助者が一名、水没している要救助者が一名、計四名の要救助者が救助を求めている。  
なお、和歌山市全域で同時に多数の災害事案が発生しているため、救助小隊が現場到着が遅れる見込み。救助小隊が現場到着するまで警防小隊のみで救助活動を実施する。

消防士長	島本 慎吾
消防士長	三崎 哲摩
消防副士長	山根 聖司
消防副士長	前田 憲輝
消防副士長	木村 雅紀
消防副士長	中西 雄一
消防士	木野 竜太

## 消火器で消火体験

消火器体験のコーナーでは、訓練用に使われる水消火器を使って、実際に燃えている炎に向かって消火器を操作しました。

参加した男の子は、大きな声で「火事だー!」というのが一番難しかったそうです。

実際の炎の熱気を感じることで、少し緊張していたのかもしれませんが。男の子の消火器の構えからも真剣さが伝わってきます。



## 地震体験車

阪神・淡路大震災では、直下型の激しい揺れにより多くの建物が倒壊し、東日本大震災では、大きな横揺れが長く続いたことが特徴でした。

参加者からは、実際の揺れを体験し、揺れの怖さや頭を守る方法を学ぶとともに、家具の転倒、落下、移動防止など「地震に備える」ことの重要性を改めて考えるきっかけになりましたという声が聞かれました。



## 土石流モデル体験コーナー

土石流モデル体験コーナーは、土石流が発生する環境を小さく再現し、実際にそのメカニズムを見ることができるコーナーです。治山ダムがある場合とない場合では下流の市街地の土石流による被害に大きく違いが出ることが分りやすく再現されていました。

体験を終えた子どもたちは、「ダムがある方が、おうちが壊れなくていい!」、「夏休みの自由研究でやってみたい!」などと感想を持ち、勉強になっていたようです。



## 紙食器づくりコーナー

紙食器づくりコーナーでは、新聞紙やチラシを使って折り紙の要領で紙食器を作る方法を学べるコーナーでした。災害時には紙食器にラップやポリ袋を被せれば食器として使え、また災害時でなくともキャンプの時などいろいろな場面で活用できるものです。

折り紙感覚で楽しみながら参加しているご家族がたくさんいらっしゃいました。「もう一回やりたい!」との声も聞こえ、子供たちに人気のコーナーでした!



## 消防車の展示

ふだんあまり近くで見ることがない消防車や救急車が展示されました。消防ポンプ車、救急車、大型水槽車、災害支援車の4台の消防車両が集結しました。災害支援車のなかも見学ができて大人も子ども興味津々。また子ども用の消防士の服を着ての記念撮影ができて、子ども達は目を輝かせていました。



## レスキューチャレンジ

屋外イベントエリアのレスキューチャレンジコーナーでは、未来の消防士である子どもたちがレスキュー隊員になりきって、水平に張られたロープを渡り、レスキュー隊員の訓練を体験しました。

レスキュー体験を終えた子どもから、「疲れたけど、楽しかった。」と興奮した様子でした。ちょっとたくましくなったかな。

人を救うことは大変な仕事なんですよ…。



第44回  
全国消防救助技術大会  
市民インタビュー

政田さん・北浦さん・窪津さん

●今日は、主人が大会に出場するので、友人たちも応援に来てくれました。  
●実際に訓練を見られる機会が少ないので、間近で隊員の方々の技術を見て、毎日、努力を重ねられているんだなと感じ、改めて尊敬しました。  
●阪神淡路大震災がきっかけで、夫は消防士を目指すことになったので、神戸市で開催された大会に出場していることに感慨深いものがあります。

●隊員の方々の真剣さやひたむきさが伝わってきました。実際にこれだけの体力や技術を持っている隊員の方が、災



害現場で活動されているんだなと思うと安心します。これからも頑張ってください!!

東一さんご家族

●今日は、消防士の友人から大会が開催されることを聞き、来場しました。  
●隊員の方々の熱い思いとそれぞれの競技の技術やスピードに迫力を感じました。また、子ども向けのイベントがたくさん用意されており、家族みんなで楽しんでいきます。  
●会場での阪神淡路大震災の展示パネルを見て、いつ何が起こるか分からないということを改めて感じ、災害に対する日頃の備えの大切さを強く感じました。

●自宅の近くに消防署があり、いつも気さくに話しができたり、市民にとって



身近な存在と感じています。これからも頑張ってください。

海老名さんご家族

●今日は、主人が、子どもの幼稚園に貼ってあったポスターを見て、イベントがあることを知り、来場しました。  
●これまで相当な訓練されているから、このような舞台でも、力を発揮できるのだらうなと感じました。  
●今日の訓練を見て、いざという時にも頼りになると感じ、消防への信頼感がさらに増しました。

●消防士さんは、子どもたちからも憧れられる職業です。日々の訓練は大変だと思いますが、これからも頑張ってください。



胎中さん・田中さん

●私たちは、大会会場の神戸学院大学の学生で、キャンパスでイベントがあることを知り、見に来ました。

●今日はじめて救助訓練を見ました。訓練されている隊員の方々の姿は、とても格好良かったです。それは、日々ひたむきに努力されているからこそ、だと思いました。

●とても努力されていることが伝わり、災害が起こった時にも、とても信頼できる存在だと改めて感じました。

●会場の煙体験コーナーで、実際に体験してみても火災の怖さを実感でき、同時に、消防士の方々が、命がけで現場活動されていることを知りました。



# オープニング セレモニー (陸上会場)

「レッツ・ゴービバ、ビバ、サンバ！」

開会式が盛大に行われた後、オープニングセレモニーとして、一般財団法人日伯協会によるサンバが、本大会を一層盛り上げました。

一般財団法人日伯協会は、1926（大正15）年に創立し、日本で初めてブラジルとの2国間交流関係を結んだ団体です。神戸市は、カーニバルの本場であるリオ・デ・ジャネイロ市と姉妹都市の関係を結んでおり、毎年開催される神戸まつりでのサンバは有名です。

ドラムやキーボード等の生演奏が始まると、2歳から80歳までの総勢約30名がサンバのリズムに乗って、軽快なフットワークを披露しながら登場しました。会場は、大きな拍手と歓声が上がりと、夏の暑さと湿気を一気に吹き飛ばすと同時に、出場選手達の緊張をほぐしました。

また、水上の部会場においても、ハーフタイムショーとして、プールサイドで情熱的なサンバを披露すると、会場は一気にヒートアップし、出場選手達の士気も大いに燃え上がりました。

ダンサーの山本亜里沙さんと安田美佐枝さんは、「20年前の震災の後、全国の皆様に助けていただきました。その御礼の気持ちを込めて踊りました。東日本大震災の被災地でも踊って盛り上げたいです。」と笑顔で応えてくれました。

また、一般財団法人日伯協会会員である神戸ブラジル協会副会長の佐脇啓修さんからは、「震災から20年経ち、復興は進んできたが、細部はまだまだ傷が残っている。これからもサンバを通じて神戸を盛り上げていきたい。」とお話していただきました。



## AR動画配信サービスのご案内

スマートフォン、タブレットで動画を見ることができます。

ARアプリを使用して動画を見る方法は下記を参照してください。

無料ARアプリCOCOAR2のダウンロードはこちら♪

iOS版  
ダウンロード



Android版  
ダウンロード



**1** アプリを  
ダウンロードする！



**2** アプリを起動し  
マーカ―\*をかざす！



**3** 動画や音楽などが  
自動再生される！



※マーカ―画像：スマートフォンやタブレットのカメラで読み込む画像です。  
●「COCOAR2」のご使用はWi-Fi、またはLTE環境を推奨しています。  
●回線混雑状況等により画像の認識や動画再生が遅くなる場合があります。

AR (拡張現実) とは…

ARとは、マーカ―をスマートフォンやタブレットをかざすと動画や音楽などが自動再生されます。



一般財団法人全国消防協会  
Firefighters' Association of Japan

— 安心への選択 —

消防職員とその家族を守る団体保険です！

全国消防グループ保険 (生命保険)

消防職員医療保険 (損害保険)

消防職員傷害保険 (損害保険)

消防職員賠償責任保険 (損害保険)

一般財団法人全国消防協会の消防団体保険は、全国16万人の消防職員の助け合いの制度です。  
消防職員とそこご家族の皆様の福利厚生に是非ご利用下さい！

お問い合わせは ☎ 0120-119-147 (生命保険) ☎ 0120-065-988 (損害保険)

消防団体保険の収益は、全国消防救助技術大会の開催をはじめ、全国の消防職員のための事業の実施に活用されています。

# 大会ダイジェスト



環境保全のため植物油インキを使用して印刷しています。

第44号 平成27年10月23日発行

編集 発行 一般財団法人 全国消防協会

〒102-8119 東京都千代田区麹町1-6-2  
アーバンネット麹町ビル 電話 03(3234)1321(代表)